



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1999年10月1日発行 第21号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

ホアン・レニャ新駐日スペイン大使 当協会名誉会長就任を快諾

本年4月、前駐日スペイン大使のサンチャゴ・サラス氏が帰国され、その後当協会の名誉会長の席が空白になっていた。そして5月、新たにホアン・レニャ氏が駐日スペイン大使として着任された。それに伴い、当協会では本年度総会の席で、新駐日スペイン大使の、当協会名誉会長就任を要請することを決議した。

7月11日、正式に文書をもって当協会名誉会長にご就任いただきたい旨、要請したところ8月10日付け書簡で、快諾を得ることができた。

来る2000年は、当協会設立10周年になる。新しい名誉会長を迎え来るべき年は、当協会にとってさらなる飛躍の年となることであろう。



▲本年の総会挨拶で挨拶されるホアン・レニャ大使

会員証発行と賛助会員での優待特典

待望の会員証が10月1日付で発行されます。会員証はAIYES通信21号に同封してお届けします。

この会員証は、今後協会の集会等での席上で、名札として兼用するようになります。大切に保有し、協会のパーティーに参加される時などは、必ずご持参ください。

明年度（2000年度）からは、年会費の納入が確認されるとすぐに、新年度分の会員証をお届けできる体制を準備中です。

また、この会員証を提示すると賛助会員の各社で、色々なサービスを受けることができます。そのサービスの内容の詳細は、次頁の表の通りです。

会員証 横浜スペイン交流協会
会員番号 458-0112-461

氏名 横浜 太郎 (M)



TARO YOKOHAMA

有効期限 2000年4月30日

La Asociación de Intercambio entre Yokohama y España

▲児玉会員のデザインを朝倉理事がパソコンで作成したカラフルな会員証

賛助会員の各社のサービス内容

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会員サービス内容
レストランオリーブ	西区高島 2-5-10	045-441-4996	サングリア一杯
太陽海外航空(株)	東京都中央区京橋 2-2-14 山陽アネックスビル 7 F	03-3281-2441	日本出入国カード作成料及び成田空港使用料を負担する
カサ・デ・フジモリ	関内本店	045-642-9474	サングリア一杯
Bar Español	関内本店前	045-651-1074	サングリア一杯
アトリエ JUNE	神奈川区西神奈川 1-6-1 サクラビア701	045-313-9417	押し花額制作代の通常価格から10%引き
アランフェス	横浜スカイビル11階	045-442-0581	サングリア一杯
アマポーラYokohama	横浜ルミネ 6 階	045-453-6851	サングリア一杯
パドル・デ・かまくら	江ノ電長谷駅そば	0467-22-6798	サングリア一杯

*太陽海外航空(株)および、パドル・デ・かまくら以外はすべて横浜市内。

※※※※※ スペイン語講座ニュース ※※※※※

スペイン語講座教室委員懇親会開かれる

去る7月17日、関内にある「カサ・デ・フジモリ」で、スペイン語講座教室委員懇親会が開かれた。この懇親会も、今回で3回目となり、協会役員、講師、委員合わせて24名が参加した。

懇親会は、「全国各地にある交流団体の中で、スペイン語教室を開設しているのは当協会のみで、その実績は高く評価されており、問い合わせも多い」旨の下山会長の挨拶に始まり、全員が自己紹介をかねて教室運営及びスペイン語習得についての抱負を語った。

受講生としては、とにかくじけそうになる気持ちをなだめつつ、細々でも長く続けることが何より大切であり、教室委員としては、そのための良い雰囲気作りをしていく必要があると感じた。

今年は特に、6月より新たにスタートした3教室の、橘川、コンチャ両先生と委員6名が加わり、またジョランダ先生が今回初めて参加されて、会場は歯切れの良いスペイン語と日本語が飛び交う中、カサ・デ・フジモリご自慢のパエリアの美味しさに歓声を上げ、大変な盛り上がりを見せた会となった。



▲盛り上がりをもせたスペイン語講座教室委員懇親会

スペイン語講座、新たに3教室がオープン

従来6教室あった当協会主宰のスペイン語教室に、新しく3教室が加わった。新教室はヒラソル教室（従来からあったヒラソルからリニューアルされたもの）、入門コースC、ロサ教室の3つである。これらの教室の受講生に学習の抱負を語ってもらった。

① ヒラソル教室

金子 亜也子

6月から新クラス、ヒラソルに参加させて頂いております。初回、「小説を読みましょう」という先生のお言葉に、ついていけないのか不安になりましたが、優しい橋川先生のご指導のもと各自、分からない部分を質問しながら進んでおり、マイペースで学べるので安心しました。先日は殺人事件(!)が起きたので、今後のストーリー展開も楽しみです。

私のスペイン語との出会いは、3年程前から2年弱、メキシコに住んだことでした。このクラスで勉強を始めてからは先生やクラスの皆さんのお話をお聞きして、スペインにも興味が湧き始めました。言葉だけでなく文化なども学んで、そのうちスペインを旅行できたらうれしいです。今後どうぞ宜しくお願いします。



▲ヒラソル教室学習風景

② 入門コースC教室

岩岡 秀子

3月にスペイン旅行に行き、数少ない暗記した単語と栗山先生のハンドブック片手に、ショッピング、パル等なんとか楽しむことが出来ましたが、スペイン語を少し学んでみたいと思っていた折に、横浜市の広報紙で入門コースの講座のあることを知り受講するようになりました。一、二、三回と、どうなることかと不安でしたが、回を重ねると共に辞書を引くのも少しずつ慣れ、多少明かりが見えてきた気がします。

また、成人した息子に教えられ、今頃になってスペイン語を通して共通の話題が出来るこの頃です。今後とも温かく見守って下さる橋川先生のご指導のもと頑張りたいと思います。



▲カンボ・デ・クリプターナでの筆者

③ ロサ教室

石川 明

スペインの絵画、建築、それにキリスト教とイスラム教の混合された宗教文化に興味を持ち、2年程前からNHKのラジオ講座で勉強を始めました。今回横浜スペイン交流協会での講座に参加させていただき、初めてナマの授業を受けましたが、初日に、周りの生徒の皆さんのレベルの高いのとコンチャ先生のいうことがさっぱり分からなくて、一回でやめようと思っていたところ、授業のおわりに幹事さんから当番委員をやれといわれ、やめにくくなってしまいました。

クラスの皆さんはとても熱心ですが、それにも増してもっと熱心なのはコンチャ先生。我々がつかえても辛抱強く丁寧に指導して下さる、とても素晴らしい先生です。また、協会幹事の方々の気配りもあって活気のある楽しいクラスです。

私の夢は、将来少しでも話せるようになったら、東京ーマドリードの往復航空券だけを持ってスペイン・ポルトガルに行き、汽車とバスを使い、自分で次の日のホテルを探し、出来るだけ小さな町や村を歩き回ることです。それはいつの日のことやら? コンチャ先生、仲間の生徒の皆さんよろしくお願ひします。



▲マドリードのスペイン広場での筆者

・講師自己紹介・

コンチャ・モンテス

みなさま はじめまして。

心からの敬意と愛をこめて、自己紹介させていただきます。

私は、コンチャ・モンテスです。スペインのカスティーリャ・レオン自治州・パレンシア県にあるビリャヌエバ・デ・セラットという村で生まれました。私の故郷はスペインのすべての地方がそうであるように、芸術と文化がモザイク模様を織りなしており、とりわけロマネスクが特徴です。それに加え、人々は人なつこく、陽気ですので、一度このパレンシア地方を訪ねてご覧になることをお勧めします。

これまでの人生で私はたくさんの旅行をしました。色々な国に住み、そこでスペイン語を教える機会を得ました。この経験は私にとりとても良かったと思っています。他国の人々がスペイン語を学び、それを通してスペインの文化と交流するのを見て、私は大変元気づけられました。

私は4年前に東京へ来ました。すぐに日本語を学び始め、今も勉強を続けています。日本文化はあらゆる面でとても豊かです。この国では人々は私を大変温かく受け入れてくれます。

私はA I Y E S（横浜スペイン交流協会）でスペイン語を教えていることを大変喜んでおります。私を講師として迎えて下さってありがとうございます。

私達のお互いの国が日々もっと近づき合えることを願って、ごあいさつとさせていただきます。



▲ロサ教室で教えるコンチャ先生（中央）

コンチャ先生のサイン▶

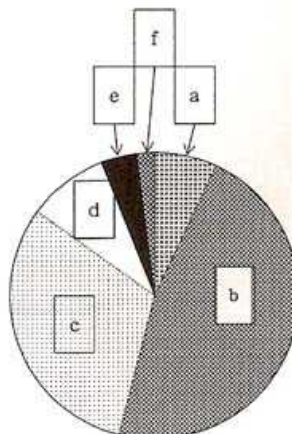
会員の平均年齢は58歳

協会設立10周年を前に、会員の年齢構成を把握し、あわせて会員のニーズ調査を行った。そこで、今回はまず会員の年齢構成のデータがまとまったので、報告する。

また、現在の男性と女性の構成比率は、40%（男）、60%（女）であった。

年代別構成表

年代区分	人 数	比 率
a ; 70歳以上	7	7%
b ; 60歳から69歳まで	50	47%
c ; 50歳から59歳まで	33	31%
d ; 40歳から49歳まで	9	9%
e ; 30歳から39歳まで	4	4%
f ; 29歳以下	2	2%
合計	105	100%



平均年齢の計算方法

年代別構成表のa、b、c、d、e、fの各年代毎に中心値をその年代の平均値と仮定して計算した。その結果、協会会員の平均年齢は58歳と推定した。

スペイン・サロンへのお誘い

下記の要領でスペイン・サロンを開きます。

スペインについての情報をお持ちの方、それをお聞きになりたい方、皆と一緒にいるだけでよろしい方、どうぞお集まりください。スペインへの熱い思いで、盛りあがりましょう。

■日時：10月16日（土） 13時30分より16時30分

場所：神奈川自治会館 6F 602号室（中区山下町75 TEL045-664-7500）

横浜駅東口そごう横から市営バス県庁・山下町方面行に乗車して神奈川自治会館バス停車。バス停反対側の金色に輝くビルに隣接する建物

J R・地下鉄（関内駅下車。山下町方面徒歩10分）

■日時：11月27日（土） 13時30分より16時30分

場所：県民サポートセンター 406号室（横浜駅西口。三越デパート横入る。）

■日時：1月8日（土） 13時30分より16時30分

場所：県民サポートセンター 406号室

担当／石川

高柳

★★★★★賛助会員紹介（第1回）

レストラン『オリーブ』

私は27年前、スペイン料理に出会い、日本人の味覚にぴったりと感じスペインレストランでの修行を始めました。現在は無いのですが渋谷のNHK放送センター近くにあったタベルナ、今赤坂にあるロスプラトスの前身の店で修行を始めました。その後スペインでの3年間の経験の中で、私が「これは」と思う料理を作り出すのが楽しみになって来たのでオリーブと言う店名でスタートしました。店名オリーブはスペインと一番関係深い、オリーブの実、オリーブ色、オリーブオイルなど、スペインを連想させる名前であったのでつけた屋号です。

オリーブ誕生は1979年。横浜駅西口の鶴屋町に7坪の手作りの店から始まりました。1990年J R石川町駅北口に移転し、フラメンコのショーが見られる店としてオープンしましたが、交通の便の問題でやはり横浜駅の近くと思い、現在の東口に移転。お客様から「今度はどこに行くのかな」と冷やかされてしまいましたけれど……。

当店の料理はどちらかと言うとタパス（おつまみ）的な料理が70%を占めていますが、これがスペインを代表する料理で、スペイン人が日常一番食べるものではないかと思えます。

スペインではだいたい、4つの料理があると思います。まず地中海に面した米の産地バレンシア、ムルシア地方のパエリャ、2番目に南部アンダルシア地方、小魚などを天麩羅にした揚げ物料理、3番目に内陸部の子羊や豚などのアサード（ロースト）腸詰めや、生ハムなどの肉料理、そして4番目にガリシア、カンタブリア地方の魚や貝の料理などです。私は、これらの地方料理の中から日本人に、手を加えず味を現地のまま提供できるように、メニューを組替えながら20年の歳月を過ごしてきましたが、まだまだスペインにはクラシック料理が沢山あります。多くの料理を提供できるようこれからも頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくご支援の程お願いいたします。横浜スペイン交流協会の会員証をご持参の方にはサングリアを一杯サービスさせていただきます。これからも頑固な店ですが、オリーブを宜しく御願いたします。

オーナー 中村 義雄



▲オリーブの店内（スペインのふんい気あふれるインテリアが魅力的）

ここにいくのかな」と冷やかされてしまいましたけれど……。

新入会員紹介

当協会も明年には設立10周年を迎えます。そこで、10周年の記念イベント開催に向け、現在会員の皆さんからお知恵と、ご協力を仰いでいるところですが、そこに今回多くの方々が会員として入会されました。そんな心強い方々の自己紹介です。

川島 昭芳 (AKIYOSHI KAWASHIMA) 1999年5月29日入会

金沢区

スペイン語会話の機会を作り勉強するため入会。協会の行事にも参加して友好を志したい。



牧瀬 貢 (MITSUGU MAKISE) 1999年6月1日入会

戸塚区

1993年から1998年まで㈱ブリヂストンビルバオ工場に駐在した。その時スペインに大変興味を持った。私の経験を踏まえて協会の活動に参加し、かつ自分の啓発ができればと思い入会した。



石橋 明子 (AKIKO ISHIBASHI) 1999年6月1日入会

磯子区

スペイン語とドンキホーテが大好きな主婦です。よろしく御願い致します。



中西 祥子 (SACHIKO NAKANISHI) 1999年6月1日入会

品川区

大好きなスペインの色々なことをこれから勉強していきたいと思います。



露久保 孝一 (KOICHI TSUYUKUBO) 1999年7月14日入会

中区

スペインの文化、芸術に興味を持っていましたが、新聞記者は多忙なので、「スペインへの憧れ」もしぼんでしまいました。昨年、私の両親がスペインへ観光旅行で訪れ、わたしにこういいました。[太陽の国ですごく楽しい思い出を残してきた。あんたもスペイン語が好きなんだから、行くといいわよ]。この言葉に刺激され「スペインよ、もう一度」とチャレンジしてみることにしました。(ジョランダ教室)



中山 亜姫 (AKI NAKAYAMA) 1999年8月4日入会

中区

スペインが大好きで、大学でスペイン語を専攻しています。母が会員で楽しそうなので、私も参加してみたくなり入会を決めました。(本人・左)



スペインと私

— 野呂 妙子 —

1962年8月マドリード飛行場に降りた。夢にまで見た憧れのヨーロッパにとうとう来たと私は、期待に胸を膨らませスペインの空気を大きく吸った。

当時私費留学であっても国外に出る事は簡単に許されなかった。その国の留学試験に合格しなければ許可されず、今では考えられないくらい不自由で、それに1ドル360円時代であった。幸いスペインの留学試験に合格、先ずサンティアゴ・デ・コンポステラの町で開催されている講習会に出席した。町の古いお城が会場で世界各国から多数の参加者があり驚いた。スペイン出身で一流の音楽家が指導にあたり、また演奏も聞けたので収穫の多い講習会であった。声楽はコンチータ・バデア女史で、有名な素晴らしい先生だった。

私はコンチータ先生の魅力に引き付けられ、先生の住んでいるバルセロナに落ち着いた。

スペインには珍しい日本の音楽留学生が居ると言うので早速、新聞・ラジオに大きく報道され各地で沢山のコンサートが開催された。日本の歌曲と舞台の着物姿がとても喜ばれた。

カソリックの女子寮に住みレッスンに通った。街には日本人の姿は全く無く、たまに日本人ではないかと駆け寄ってみるけど何時も「ノー」でがっかりした。

当時日本も貧しかったけれどスペインは更に貧しく、犯人は同室の女子学生かどうかは分からないけれど、色々のもが無くなり閉口した。しかし寮は明るく、或る夜、外から美しい音楽の調べが聞こえ、バルコニーから覗くと5・6人の若者達がマント姿で寮にいるマリア嬢に、セレナーデを奏でており、その情景はまるで映画をみているようにロマンチックであった。

スペインの人は信仰が厚く性格が素朴で、沢山の暖かい親切な友に恵まれ、寂しいことは一度もなく過す事が出来た。

一年で去りがたいスペインにさよならをイタリアに向かったが、スペインの思い出はとても深く大好きな国である。



▲総会での筆者（左側）

スペインの桜は今

— 池本 三郎 —

今年の春、私の以前の職場の女子職員が、スペイン観光旅行の途中、ロンダに立ち寄った際プラス・インファンテ公園の中を桜がどこに植えられているのか見ようと、仲間と一緒に探し回った、と言う内容の手紙をくれました。桜が植えられていると言うだけで、何か特別の親しみを感じたようです。

今年の夏は暑い日が続きましたが、皆さんはスペインの桜は今どうなっているのかと思いを馳せていらっしゃるでしょう。

私は、さくら植樹スペイン友好親善訪問に技術者として2回同行させていただきましたので、今分かっていることを紹介させていただきます。

当時、一番気がかりであった事は、スペインの夏の高温と乾燥そして弱酸性土壌を好む桜が、アルカリ土



▲現地で指導する筆者（右）

壤にどこまで適応出来るだろうかと言うことでした。

セビリア市では、事前にその対策を考えてくれました。

第3回目プリンシペスで公園の植樹は、式典で植え付けた3本以外は全て大きなビニールポットに植え付け同公園内の苗圃で管理するという慎重な扱いであり、ポットで数年間育成し、環境になじませてから実際の植樹を実現させるという事でした。私もこれが最善の方法だと思います。

コリアデル・リオ市の場合もポットで仕立てるとのことでしたので、数年は両市とも苗圃の中で桜の育成を観察しながら育てられていく事になります。

セビリア市の公園課長アントニオ・ロドリゲス氏に、下山会長に相談の上で桜の活着を促進する資材購入の

費用負担を申し入れたところ、彼は「我々に任せてください。必要な事は全部致します」ときっぱりお断りになりました。あの自信に充ちた笑顔が今も心強く思い出されます。

会員投稿

北スペインの旅

宮川美句子

北スペイン・パラドル紀行というツアーに参加した。ビルバオからスペインに入り、西へ西へとサンティアゴ・デ・コンポステラまで行く。カンタブリア海に沿って行くとサンティジャーナ・デル・マルという中世そのままの小さな町に着く。パラドルの小窓から見える景色はまるで額の中の絵のようだ。千代紙で鶴を折ってフロントに持っていった。意外にも若いホテルマンは目の前で上手に鶴を折った。

ピコス・デ・エウロパの峯々が海に沿って屏風のように聳え立つ。そのためアストゥリアスは雨が多く、緑が美しい。世界遺産に指定されたオビエド旧市街を歩く。帆立貝の道標がある。大聖堂の祭壇は修復中だったが宝物殿を見ることができた。ここにはイエスを十字架から降ろした時に包んだ布の切れ端がある。金銀宝石をちりばめた十字架もあり十二使徒の石造が柱に刻まれている。巻物を持っているのが聖ヤコブだ。オビエドの大学の中庭には十月革命の弾痕が残っている。

レオンのベルネスガ橋を巡礼が通って行く。巡礼の道はバス通りからそれたり一緒になったりしながらコンポステラに続く。巡礼はレオンからは徒歩か自転車か馬で行かねばならない。

日本から来た若い巡礼にあった。明日からサンティアゴを目指して歩くといってスタンプ帖を見せてくれた。ここから300キロメートル以上もある。彼を心から応援した。アストルガの司教館の前では巡礼達が道を確かめ合っている。ビジャフランカ・デル・ビエルソの教会の近くには巡礼のための休息所があり、戸口には巡礼を歓迎する言葉が書いてあって色とりどりの巡礼の荷物が積み重ねてあった。

「疲れた者、重荷を負うものは、誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」という聖書の言葉が頭に浮かぶ。

今年はサンティアゴの記念日7月25日が日曜日にあたるため東門が開けられ、当日は王と王妃がミサに参



▲レオンのパラドル前での筆者

加される。その10日前に私はサンティアゴ・デ・コンポステラに居た。

夜、淡いブルーに染まって浮き上がっている大聖堂を仰ぎ見つつ、なんとも言えない暖かさに包まれるのを覚えた。

会員投稿

ちょっと一言

高嶋秀夫

A I Y E S通信を毎回楽しく拝見している会員のひとりですが、一寸気になる語句が目についたので、ご検討願いたいと思います。

最近法制化された、君が代、日の丸と同じ位、第2次大戦中使われた語句に「閣下」と言うのがあります。新聞紙上で殆ど使われなくなりましたが、A I Y E S通信19号、20号では頻繁に使用されています。日本でこのように活字で使われているうちは良いのですが、レセプション、パーティ等、この間の定時総会のような席上、漢字では無く「カツカ」と紹介されるとスペイン語圏の方たちには、あまり良い響きがありません。因みにスペイン語の辞書を引くと、

C A C A 発音 カアカ 女性名詞

1) 小児語 うんち hacer caca うんちをする

El niño se ha hecho caca y pipi. 子供はうんちとおしっこをした。

2) 俗語 くず、ガラクタ、役に立たない(くだらない)物

3) 俗語 汚物、不潔物

とあり、事実問題として嫌な顔をされたスペインの方もいたそうです。

以上気になった事を申し述べました。

それから、これは余談ですが、日常会話の中で次の言葉を探したり、詰まったりした時について「あの一」とか「えーと」と言う言葉が出てしましますが、「えーと」はいいとしても、「あの一」はスペイン語で「こもん肛門」の意味なので、現地で買物の時など気を付けたいと思います。

会員投稿

スペインワイン探訪 (第1回)

リベラ・デル・ドゥエロ編

山崎宗城

残念ながら日本では、スペインワインについてあまり良く知られていない。しかし、スペインはヨーロッパを代表するワイン産出国だ。各地にそれぞれ特有のワインがある。

今回から3回にわたって、そんなスペインワインの話を通が語る。

ホテルに迎えに来てくれたホセ・ベガス氏の車でマドリードを出発したのは、朝の九時頃だったろうか。

国道1号線を北に150キロ程走りアラング・デル・ドゥエロを左に折れ、彼のフェンテスピーナのボデガに向かう。

この一帯はドゥエロ河流域の原産地呼称リベラ・デル・ドゥエロ地区でブルゴス、ソリア、セゴビア、バジャドリッドの各県を包含する広い地域である。標高は平均850～900メートルの高地で、アレンダに近づくにつれパラモスと呼ばれる岩だらけの荒野が特徴的である。

この日は、彼のボデガの他に、さらに北に5キロ程のところにあるソテツジョのカレホ氏のボデガも見ると。

原産地呼称のリベラからも解かるように河の流域であり、四方を高い山脈に囲まれた盆地でもあり、土地は水はけの良い石灰質を多く含む粘土や泥灰土であった。

日本でも甲府盆地・上山盆地等谷や盆地がブドウ栽培地として知られているように、ブドウの栽培には昼と夜の気温差の大きいことが必要な条件である。

ブドウは、昼間太陽による光エネルギーを利用して、二酸化炭素と水からブドウ糖を合成（光合成）し、夜は逆に呼吸により昼間蓄積されたエネルギーのブドウ糖が二酸化炭素と水に分解されるのであるが、光合成も呼吸も温度が高い程活発なため、昼の気温が高く従ってブドウ糖合成が多く、夜の温度低下が強いと分解量が少なく結果として果実の糖度が高い良質のブドウが収穫されることになる。

現在スペインのワイン生産量は世界第3位であり、品質のすぐれた各特産地独自の品質を確保するための、「ブドウ畑、ワイン及びアルコールに関する法令」が1970年12月2日施行された。同法に基づき原産地呼称庁（INDO）が設立され、原産地呼称（D・O）を名乗る条件が定められ、さらにその規則を管理運営する原産地呼称統制委員会（CONSEJO REGULADOR）が各原産地に設置されている。

現在スペインの全土で51のD・Oワインがある。ここで簡単にワインの醸造過程を見ておこう。

収穫（VENDIMIA＝COSECHA）＝9月から10月の始めにかけてブドウの成熟度気象条件、月の状態、通常太陽の昇る2時間後からと言われる収穫時間等の要素を考慮して丁寧にハサミを使って収穫され、セスタ、カパソ、クエパノそしてアポルタデラと呼ばれる容器でボデガへ運ばれる。

除梗（DESRAPONADO）＝苦みや青臭い匂いや味を避けるために行われる。

破碎（PISADO）＝赤ワイン醸造は除梗の後破碎され果汁が果皮・種子といっしょに放置される。以前は、裸足やアルパルガタスと呼ばれる布靴や鉄を打ったボータスで踏み碎いていたが、現在はピサドーラ使用である。この過程はマセラシオンと呼ばれる。

発酵（FERMENTACION）＝破碎された果汁モストは、間なく発酵が始まり24時間後には炭酸ガスが発生し始める。発酵とはブドウ糖・果糖がアルコールと二酸化炭素へ変化することであり、この現象を司る微生物がワイン酵母である。

赤ワインの場合発酵は、20～30度Cで20日間程で終わる。

クリアンサ（CRIANZA）＝発酵の終わったワインは、固形物は徐々に発酵樽の底へ沈殿していき、果汁から果皮・種皮等の分離（DESCUBE）を行いワインをREPOSOさせる。ここからの段階はクリアンサと呼ばれ、ワインの瓶詰めまたはさらなる熟成へ進むための大切な工程であり、固形物の凝固・オリ下げ・濾過・殺菌作業が中心である。

この間にワインは熟成（MADURACION）を遂げる。

その後、最後のTRAVASEにより品質・風味・透明度・芳香の仕上げを行う。

瓶詰め・充填（EMBOTELLAMIENTO）

熟成（ENVEJECIMIENTO）＝多くは200リットル入り北米産オーク材、または欧州のオーク材使用木樽内熟成後、瓶熟成される。それぞれ酸化的熟成と還元的熟成が主体である。

扱て、リベラ・デル・ドゥエロD・Oの場合、造られているワインのカテゴリーは以下の3つである。

クリアンサ（CRIANZA）＝熟成期間2年がミニмум。内、赤ワインは木樽熟成1年ロゼワインは木樽熟成6ヶ月。残りは瓶熟成期間。

レゼルバ（RESERVA）＝熟成期間が3年がミニмум。内、1年が木樽熟成。残り瓶熟成期間。



▲ボデガ・フェリス・カレホにて、社長のカレホ氏と赤ワイン

グラン・レゼルバ (GRAN RESERVA) = 熟成期間 5 年がミニマム。内、木樽熟成 2 年残り瓶熟成期間。

期間の起算日は収穫年の12月1日。使用するブドウは、ティンタ・デル・パイと呼ばれるテンプラニー
リョ近似種75%以上。その他ガルナッチャ、カベルネ、ソービニョン、マルベック、メルロー、アルビリョ
種である。品質をしばり込み、厳しい品質管理の下、まじめなワイン造りが行われていた。

ースペイン・ミニミニ情報ー

◎ベラスケス年とセビリア

本年(1999年)はベラスケス生誕400年にあたります。そこでこの偉大な芸術家を生んだ街セビリア市では市の予算4000万ペセタを投入し、イベリア航空、スペイン盲人協会(O.N.C.E.)などの協力を得て、「ベラスケスとセビリア」をテーマに各種の記念行事を行います。その主なものを紹介しましょう。

(1) 特別展 (主催: アンダルシア美術館 協力: プラド美術館)

期間: 1999年10月1日~12月12日 (73日間 無休)

会場: カルトゥハ・デ・サンタ・マリア・デ・ラス・クエバス修道院 (カルトゥハ地区世界貿易センター隣)

時間: 9時~21時

入館: グループは予約が必要

(2) 国際シンポジウム

期間: 1999年11月8日~11月11日

会場: カルトゥハ・デ・サンタ・マリア・デ・ラス・クエバス修道院 (カルトゥハ地区世界貿易センター隣)

基調講演 (Enrique Harris) の後、6部門別にシンポジウム

セッション1: 「ベラスケスとセビリア」 主幹Alfredo Morales

セッション2: 「ベラスケスと宮廷文化」 Jonathan Brown

セッション3: 「ベラスケスとイタリア」 Fernando Checa

セッション4: 「ベラスケスとその博識」 Fernando Marias

セッション5: 「ベラスケスとその作品」 Alfonso Gutierrez de Ceballos

セッション6: 「主題としてのベラスケス」 Delfin Rodriguez Ruiz

◎バルセロナ・リセウ劇場99年冬のオープニングプログラム

◆オペラ

トゥランドット (プッチーニ) ーリセウ劇場管弦楽&合唱団他ー

10月11日、13日、14日、16日~20日、23日、26日、30日

マクロプロス事件 (ヤナーチェク) ーリセウ劇場管弦楽&合唱団他ー

11月22日、25日、28日、12月1日、4日、7日

ランメルモールのルチア (ドニゼッティ) ーリセウ劇場管弦楽&合唱団他ー

12月29日、30日、2000年1月2日、4日、5日、7日、8日、12日、14日

◆コンサート

交響曲第2番 (マーラー) 指揮: パートランド・ビリー

10月29日、31日

リセウ劇場管弦楽と合唱コンサート 指揮: リカルド・ムーティ

11月8日

チェコスロバキア音楽の系譜 (マクロプロス事件によせて) 指揮: サルバドール・マス

12月2日

レクイエム（ヴェルディ）

指揮：バートランド・ビリー

12月11日、13日

◆バレエ

フランクフルト・バレエ

11月3日～5日

◆リサイタル

モンセラート・カバリエ（ソプラノ）

10月15日

ハウメ・アラガル（テノール）

10月28日

マリリン・ホーン（メゾソプラノ）

11月23日

カーリーナ・ゴルチャコーヴァ（ソプラノ） 12月5日

◎JALとイベリア航空が共同で日本～スペイン間を運航

イベリア航空が日本とスペイン間の直行便を中止してからというもの、日本からスペインへの便は、途中ヨーロッパの都市での乗換えを余儀なくされていました。

ところが、明年（2000年）春から、日本航空とイベリア航空とが手をつないだ形での運航を開始するとのニュースが流れています。これが実現化すると、またスペインへの便が便利になります。早い時期の再開が待たれます。

***** INFORMACION *****

◆協会会員 野呂妙子さん [情熱と魅惑の夕べのリサイタル]

特別出演 サチ・ノロ（バレエ） アラン・リグー（バレエ） アマポーラグループ（フラメンコ）

賛助出演 田島亘祥（ピアノ）

日 時 1999年10月22日（金）18時30分

場 所 簡易保険ホール（ゆうぽうと）3490-5111 五反田駅下車5分

お問い合わせは (株)野呂事務所まで

◆賛助会員 杉野宣雄氏、横浜高島屋40周年記念の押し花展を開催

賛助会員の杉野宣雄氏が横浜高島屋40周年記念で押し花の個展を開催します。横浜スペイン交流協会会員は、特別に押し花会員と同額の価格でチケットが入手できます。チケットご希望の方は、メイプルノブまでお問い合わせ下さい。

横浜高島屋40周年記念「押し花その素晴らしき世界－杉野宣雄が見た自然の魅力」

日 時 1999年9月30日（木）～10月5日（火）10時～18時30分（最終日は16時30分終了）

場 所 横浜高島屋ギャラリー（横浜駅西口）8階

入場料 一般 800円、会員価格 500円

<編集後記>

1900年代にお届けする最後の会報です。最近では投稿が多く編集する側にはうれしい限りです。明年は協会設立10周年の行事が控えております。会員の皆さんの意見お待ちしております。

* 投稿寄稿宛先 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内
かながわ県民活動サポートセンター
レターケースNo.184 横浜スペイン交流協会会報係